セミナー開催報告

「Hokkaido Summer Institute 2018 – Basic and Clinical Aspects of MRI」を開催

医用生体理工学分野　助教　堤　香織

Hokkaido Summer Instituteは，北海道大学で2016年から始めた授業で，6月～8月までの間に120科目が開講され，本学の教員と海外から招へいした研究者によって英語の授業が行われます。放射線技術科学専攻では，昨年度に引き続き本プログラムに参加し，7月2日より3日間「Basic and Clinical Aspects of MRI（MRIの基礎から臨床）」と題した講義を開講しました。今年度は内容を核磁気共鳴画像（MRI）に絞り，6名の講師によってMRIの基礎から最新の研究まで様々な角度からお話しいただきました。初日の7月2日は，大学院生を対象として山本徹教授による「MRIの基礎と安全」に関する講義と唐明輝助教による「機能的磁気共鳴画像法（fMRI）」の講義が開講され，これまで日本語で学習した基礎的な内容を改めて英語で確認し，随時講師の先生と交流しながら進められました。

▲集合写真

2日目は保健学科放射線技術科学専攻3年生が聴講に加わりました。1講目は医学研究科のTha Khin Khin講師が最先端の分野である「Radiomics」についてご紹介くださいました。3年生にとっては初めて経験する英語での講義でしたが，皆真剣な眼差しで講義に耳を傾けていたのが印象的でした。2講目は，本研究院と部局間協定校にある高雄医学大学（台湾）よりChou Ming-Chung先生をお招きしての特別講義でした。Chou先生は，ご専門であるDiffusion MRI（拡散強調画像）に必要な知識をゼロから丁寧に教えてくださり，大学院生からは感嘆の声があがっていました。講義の終わりには景品付きのクイズコーナーもありました。3講目は，杉森博行講師による診療放射線技師の立場からの「臨床画像」に関する講義，4講目は，医師の立場から「画像診断」について神島保教授にお話しいただきました。臨床の講義は学生の関心も特に高いようでした。

▲Chou先生講義

最終日は大学院生による研究発表と討論です。研究発表には森山香苗さん，二丹田優介さん，春山卓哉さん，藤森元嗣さん，研究生のLu Yutongさん，そして今回中国科学大学より本科目の履修のために来日したLi Qiangさんの6名です。それぞれに活発な議論と意見交換が行われ，今後に向けて課題を見いだした有意義な時間となりました。また全行程を通して高雄医学大学から学部2年生の学生が1名参加してくれました。

本プログラムを通して一つのテーマを短期間に集中的に学習し，また，高雄医学大学との継続的な教育・研究交流の場を持つことが出来ました。このプログラムが単に知識の充足に留まらず，将来国内外で活躍する人材育成と，研究の更なる発展に少しでも繋がれば嬉しく思います。

最後に，齋藤健研究院長，加藤千恵次教授，HSI担当者はじめご協力くださった皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。